

2015.10

# 見えない都市を見せる

東京アートミーティング VI Tokyo Art Meeting VI

# "TOKYO"

Sensing the Cultural Magma of the Metropolis

2015.11.7[SAT] → 2016.2.14[SUN]



イェンナ・ステラ 《組織/有機体》のためのスケッチ 2015年

## 展覧会概要

東京オリンピック・パラリンピックを2020年にひかえ、文化都市『東京』についての議論がさかんになっています。デジタル化、商業化されたインテリジェントな文化の外観は、フラットでとらえどころのない荒野、洗練されているがゆえに冷たい氷河にも見えます。

1980年代、東京は世界的に注目される華やかな文化都市でした。サブカルチャーやポップカルチャーの豊かさに、アートの文脈を交差、リミックスして新しい文化を生み出す東京の創造力がそこで一度花開いたのです。

四半世紀経った現在、東京は文化都市としてどのような姿を世界に、またここに住む私たちの前にあらわしているのでしょうか？震災で「永遠の日常」が継続しないことを知った私たちは、少子高齢化やエネルギー、移民問題などの危機を世界と共有しながら、新しいプラットフォームを模索しています。

「“TOKYO” -見えない都市を見せる」展は、「東京」を浮かび上がらせるための二つの構成によって成り立っています。一つは各界で活躍する東京のクリエイターが、それぞれの視点でキュレーションした「東京」。

もう一つは国内外作家が「東京」をテーマにつくる新作です。もはや一つで東京をまとめる（キュレーションする）事はできず、複数の視点を通してしかこの都市を浮かび上がらせることはできません。

世界を席卷するテクノポップや、成熟と幼さが奇妙に同居するネオテニー的特徴、誰でも有名になりうる舞台上で育まれる過剰な自己演出の美学は“ポップ”の文脈でとらえられます。また不安定で先の見えない社会的状況を個々人の強いライフスタイルの表明、あるいは積極的なつながりの中で乗り切ろうとする動きは多様な表現の形式に拡張しています。

一方、ポスト・インターネット世代の中で育まれるイメージ・オブジェとしての新しいマテリアル感覚、新旧が日常的に共存する都市風景をパラレルワールドとして再構築する若い世代の感性も生まれています。

これらの感性や表現の脈は、実は80年代から発展的に継承されている東京の創造力から掘り起こせるものであると私たちは考えています。

このように本展では、氷の下に息づく熱いマグマのような1980年代文化の命脈を引き継ぎながら、氷河を割って現れようとしている現在の東京の創造力の可能性を、国内外のアーティストの多様な視点によって多角的に探ります。

## 出品作家

YMO+宮沢章夫 / 蜷川実花 / スーパーフレックス / ホンマタカシ / サーダン・アフィフ  
岡田利規 / 目【め】 / EBM(T) / 林科 / 松江哲明 ほか計9ヶ国51組

\*各作家の詳細は次ページをご覧ください

# “TOKYO” 展覧会構成

## Curation キュレーション

文化事象としての YMO  
YMO+宮沢章夫

自己演出の舞台装置  
蜷川実花

竹の子族 (原宿、1980年代前半)  
マハラジャ (麻布十番、1980年代後半)  
ジュリアナ東京 (芝浦、1990年代前半)  
ゴスロリ (原宿、1990年代)  
インスタグラム (インターネット、2000年代以降)  
(ドキュメント写真)

何かが起こる前夜としての東京  
ホンマタカシ

桑原甲子雄  
中平卓馬  
トーマス・デマンド [ドイツ]  
赤瀬川原平  
大西麻貴+百田有希  
黒河内真衣子 / mame  
津村耕佑 / FINAL HOME  
Chim ↑ Pom  
丹下健三  
川上未映子

飛べなくなった魔法の絨毯  
岡田利規

小金沢健人

ポスト・インターネット世代の感性  
EBM(T)

テイバー・ロバック [米国]  
ジェレミー・ショウ [カナダ]  
TCF [ノルウェー]  
ジェイムス・フェラーロ [米国]  
イェンナ・ステラ [フィンランド]

東京と私をつなぐ、極私的な風景  
松江哲明

真利子哲也『極東のマンション』  
崔洋一『月はどっちに出ている』  
(スクリーニング)

## New Production 新作

公共空間のリデザイン

スーパーフレックス [デンマーク]

東京の音ノリリズムを探る

サーダン・アフィフ [フランス]

ダウンロードされ続ける東京

林科 (リン・ク) [中国]

ワームホールとしての東京

目【め】

## MOT Collection Painting Survey, 1970-2015

東京都現代美術館収蔵作品を中心に、70年代から今日までの「絵画」について展示します。

荒川修作、伊藤存、榎倉康二、O JUN、落合多武、風間サチコ、加藤泉、加藤美佳、川俣正、小林孝亘、菅木志雄、杉戸洋、曾根裕、千葉正也、奈良美智、名和晃平、櫃田伸也、福田美蘭、町田久美、村上隆、村上友晴、村瀬恭子、森千裕、柳幸典、横尾忠則、吉沢美香、吉田晋之介 (五十音順、計 27 名)

## YMO+宮沢章夫

### —文化事象としてのYMO—

YMO（イエロー・マジック・オーケストラ）：細野晴臣、高橋幸宏、坂本龍一の3名によって1978年に結成。宮沢章夫：1956年静岡県生まれの劇作家・演出家・作家。

YMOが確立した「テクノポップ」を、80年代を代表する「文化事象」として改めて捉え直し、現在の東京にどのような影響を与えているかについて「記号としてのファッション」「デジタルな非身体」「メディアとしてのYMO」などのキーワードを手がかりに、宮沢章夫が読み解きます。

## 蜷川実花

### —自己演出の舞台装置—

1972年東京生まれ。写真家、映画監督。蜷川は東京を「自己演出の舞台装置」として考え、自身も憧れたという「竹の子族」ブームから、今日までのインスタグラムなどのセルフイーに至るセルフプロデュース文化にインスパイアされた新作の他、観客が実際にその場で写真撮影ができる蜷川のデザインした撮影ブースを用意し、自分をブランディングして発表することの恍惚さと怖さを作品化します。

## 岡田利規

### —飛べなくなった魔法の絨毯—

1973年横浜出身。劇作家、演出家、小説家。チェルフィッチュ主宰。「幼形成熟」（ネオテニー）をテーマに、「渋谷系」を代表するピチカート・ファイヴの『マジック・カーペット・ライド』（1993）から想を得て、東京の今の姿を、魔法が切れて飛べなくなってしまった「魔法の絨毯」にたとえます。小金沢健人のドローイングに「東京というマジックカーペットをもう一度飛ばそうとしている人」の姿を想像し、80年代から今日までの東京の姿を「消えてしまった神話」として展開します。

## ホンマタカシ

### —何かが起こる前夜としての東京—

1962年東京生まれ、写真家。東京という場所の疎外感や、孤独でいることの肯定性や強さをテーマにキュレーションを行います。自身の「東京郊外」シリーズのほか、時代を遡った予兆的な写真や映像、描かれた東京の危機の姿、現代社会をサヴァイヴするためのファッション、理想の東京の住居や建築、そして希望としての子供の存在など、様々な作品を通して「何かが起こる前夜としての東京」が見えてきます。

主な出品作家：桑原甲子雄、中平卓馬、トーマス・デマンド（ドイツ）、赤瀬川原平、大西麻貴+百田有希、黒河内真衣子 [mame]、津村耕佑 [FINAL HOME]、Chim↑Pom など

## EBM(T)

### —ポスト・インターネット世代の感性—

ナイル・ケティング（1989年生まれ、ベルリン在住）と松本望睦（1990年生まれ、横浜在住）による、東京を拠点に活動する音の発見・共有・拡張を目指すアーティスト・ユニット及び彼らが主宰するバーチャル聴覚室。ポスト・インターネット世代の感性をテーマに、ジェイムス・フェラーロやTCFといったミュージシャンとしても活躍するアーティストの他、テイパー・ロバック、ジェレミー・ショウ、イェンナ・ステラなど日本初公開の若手アーティストを中心にキュレーションします。

主な出品作家：ジェイムス・フェラーロ（アメリカ合衆国）、TCF（ノルウェー）、テイパー・ロバック（アメリカ合衆国）、ジェレミー・ショウ（カナダ）、イェンナ・ステラ（フィンランド）

## 松江哲明

### —東京と私をつなぐ、極私的な風景—

1977年東京生まれ、映画監督。「東京」をテーマにドキュメンタリーフィルムを数多く撮影して来た松江は今回、生まれくる自身の子供の為、自分が育った東京の町を、記憶だけでなく映像に残したいと語ります。楽曲制作にミュージシャンの前野健太を迎え、自身や子供のアイデンティティと共に東京で生きることを大きな決意をもって選んだことをテーマにした新作を発表します。

## スーパーフレックス

### ー公共空間のリデザイナーー

ラスモス・ニールセン、ヤコブ・フィンガー、ビョルンステルネ・クリスチャンセンの3人によって1993年にコペンハーゲン（デンマーク）にて結成。これまでも既存の社会的なシステムや公共空間を新たにデザインするようなプロジェクトを数多く発表してきましたが、今回は東京藝術大学の学生との東京の都市空間に関するリサーチから上野公園に点在している礎石の遺構に着目し、東京の公共空間についての提言的作品を発表します。

## サーダン・アフィフ

### ー東京の音/リリズムを探るー

1970年ヴァンドーム（フランス）出身、ベルリン在住。東京の若い世代の音楽シーンに深い関心のあるアフィフは、「東京」という都市のイメージを想起させる詩を用意し、東京で活躍するHer Ghost Friendに作曲を依頼。展覧会のクロージングに合わせて都内3カ所にてライブパフォーマンスを行います。展覧会では、そのライブの告知ポスターと、歌詞、そして東京の伝統的な文化に着想を得たオブジェを制作して展示し、アフィフによってもたらされた多様な出会いと解釈が織りなす「東京」のイメージが展開します。

## 目【め】

### ーワームホールとしての東京ー

2012年に活動を開始した、荒神明香、南川憲二、増井宏文による現代芸術活動チーム目【め】は、現代の東京に見るいくつかの風景を、ワームホール（時空のある一点から別の離れた一点へと直結するトンネルのような抜け道）に見立てます。全く文脈の異なる構造をもつ風景が同時に同じ場所に存在し、完成された風景として成立していることが「現代の東京らしさ」であると考えた彼らは、都市空間の可能性を体感するモデル型の作品を発表します。

## 林科

### ーダウンロードされ続ける東京ー

1984年中国温州生まれ、北京在住。東京へ一度も訪れたことのない林科は、そのことを逆手に取り、インターネットを通して得られる東京のイメージを独自の解釈で再編集した新作を発表します。東京タワーのイメージを使用した《とろとろ線》（2015）など、本展のための新作を中心に、アーティストによってダウンロードされ続ける「東京」が、想像の都市としてアップデートされ、展示空間へと変貌します。

---

### 【東京都現代美術館収蔵作品を中心に】

もの派やコンセプチャルなど70年代を前床として、80年代に描かれた作品から最近作までの絵画をセレクション。東京在住の作家による、あるいは東京の画廊や美術館で多く展示されていたこれらの絵画作品を70-80年代、90-2000年前半、2010年以降という大きな流れにそって展示構成します。本展のコンセプトである、80年代のアートの表現と、現代のつながりと変化を概観することを目的としています。

もの派、超少女、ニューペインティング、ネオポップ、マイクロポップと呼ばれるドローイング絵画など作家たちの意識の変遷が形式の変容としてみてとれる。菅木志雄、奈良美智、名和晃平などの作品を展示する予定です。

## 関連プログラム

### 松江哲明 スクリーニング&トーク①

「トーキョードリフター」上映&前野健太ライブパフォーマンス

2015年11月29日（日）時間未定

会場 東京都現代美術館 講堂

定員 当日先着200名

料金 無料（ただし当日有効の本展チケットが必要です）

### 松江哲明 スクリーニング&トーク②

「極東のマンション」（真利子哲也監督作品）ほか上映

2015年12月20日（日）14:00-16:00

会場 東京都現代美術館 講堂

定員 当日先着200名

料金 無料（ただし当日有効の本展チケットが必要です）

### 第52回MOT美術館講座 レクチャー「YMOが切り開いた80年代文化」（仮）

2015年12月23日（水・祝）15:00-17:00（開場14:30）

講師：宮沢章夫（劇作家・演出家・作家）

会場 東京都現代美術館 講堂

定員 当日先着200名

料金 無料（ただし当日有効の本展チケットが必要です）

### サーダン・アフィフ アーティスト・トーク&Her Ghost Friend クロージング・ライブ

2016年2月14日（日）時間未定

会場 東京都現代美術館 講堂

定員 当日先着200名

料金 無料（ただし当日有効の本展チケットが必要です）

---

### Her Ghost Friend ライヴ・パフォーマンス

2016年2月10日（水）時間未定

会場 アンスティチュ・フランセ

料金 未定





2016年2月11日（木・祝）時間未定

会場 青山月見ル君想フ

料金 未定

各プログラムの詳細やその他のイベントについては決まり次第HPにてお知らせします。

## 展覧会情報

展覧会名	東京アートミーティングVI “TOKYO” 一見えない都市を見せる
会期	2015（平成27）年11月7日（土）－2016（平成28）年2月14日（日）
開館時間	10:00～18:00（入場は17:30まで）
会場	東京都現代美術館 企画展示室1階、3階
休館日	月曜日（ただし11月23日、2016年1月11日は開館） 11月24日、12月28日～2016年1月1日、1月12日
主催	東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、産経新聞社
特別協力	東京藝術大学美術学部
助成	デンマーク文化庁  在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 
協賛	
協力	アルファミュージック株式会社、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント、株式会社ソニー・ミュージックダイレクト、株式会社メディコム・トイ、東芝ライフスタイル株式会社  、東京リスマチック株式会社、 深川資料館通り商店街協同組合
観覧料	一般1,200円/大学生・専門学校生・65歳以上900円/ 中高生700円 *小学生以下無料（保護者の同伴が必要です） *20名様以上の団体は2割引き *身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方（2名まで）は無料 *本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。 同時開催の「オノ・ヨーコ   私の窓から」とのセット券もございます（11/8～）。 一般1,800円/大学生・専門学校生・65歳以上1,360円/ 中高生1,100円
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
展覧会カタログ	『“TOKYO” 一見えない都市を見せる』 2015年11月7日刊行予定 発売・発行／青幻舎
お問い合わせ	東京都現代美術館 東京都江東区三好4-1-1 03-5245-4111(代表) / 03-5777-8600（ハローダイヤル） <a href="http://www.mot-art-museum.jp/">http://www.mot-art-museum.jp/</a>
キュレーター	長谷川祐子（東京都現代美術館 チーフ・キュレーター）
共同キュレーター	難波祐子
同時開催	「MOTコレクション」2015年11月7日（土）～2016年2月14日（日） 「オノ・ヨーコ   私の窓から」2015年11月8日（日）～2016年2月14日（日） *「オノ・ヨーコ」展のみ11/8から始まります。
広報お問い合わせ	東京都現代美術館 事業推進課企画係 広報班 野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 中島三保子 m-nakajima@mot-art.jp TEL.03-5245-1134（直通） / FAX.03-5245-1141

広報用画像



イエロー・マジック・オーケストラ 1979年  
©Photo by Masayoshi Sukita



蜷川実花《TOKYO INNOCENCE》2015年  
©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

\*作家側もゲラ確認が必要となります。



トーマス・デマンド《制御室》2011年  
©Thomas Demand, VG Build-Kunst, Bonn /  
JASPAR, Tokyo 東京都現代美術館蔵



テイパー・ロバック《20XX》2013年  
Courtesy: the artist and Team Gallery



黒河内真衣子 mame  
《Personal Memory》2014AW  
Photo: Motohiko Hasui



イェンナ・ステラ  
《組織/有機体》のためのスケッチ  
2015年



林科《とろとろ線》2015年  
Copyright: Lin Ke



本展覧会広報用素材として、7点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送りください。

媒体名： 『 』

○印をおつけください

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 - )

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

- ① イエロー・マジック・オーケストラ 1979年 ©Photo by Masayoshi Sukita
- ② 蜷川実花 《TOKYO INNOCENCE》 2015年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery  
\*作家側もゲラ確認をしますので戻しに若干お時間をいただきます。
- ③ トーマス・デマンド 《制御室》 2011年 ©Thomas Demand, VG Build-Kunst, Bonn / JASPAR, Tokyo
- ④ テイバー・ロバック 《20XX》 2013年 Courtesy: the artist and Team Gallery
- ⑤ 黒河内真衣子 mame 《Personal Memory》 2014AW, Photo: Motohiko Hasui
- ⑥ 林科 《とろとろ線》 2015年 Copyright: Lin Ke
- ⑦ イェンナ・ステラ 《組織/有機体》のためのスケッチ 2015年

プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。  10名様 /  20名様

広報お問い合わせ先：東京都現代美術館 事業推進課企画係 広報班

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 中島三保子 m-nakajima@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1

TEL.03-5245-1134 (直通) / FAX.03-5245-1141

見えない都市を見せる